

## 症例に関する資料の作成基準および送付方法

☆症例報告書等の作成は、

- 『歯周病患者におけるインプラント治療のガイドライン(日本臨床歯周病学会発行)』
  - 『歯周組織再生療法のコンセンサス(日本臨床歯周病学会発行)』
  - 『歯周病患者へのインプラント治療の実際(日本臨床歯周病学会発行)』
  - 『歯周病患者におけるインプラント治療の指針2008(日本歯周病学会編)』
  - 『歯周病患者における抗菌療法の指針2010(日本歯周病学会発行)』
  - 『歯周病患者における再生治療のガイドライン2012(日本歯周病学会発行)』
  - 『糖尿病患者に対する歯周治療ガイドライン改訂第2版(日本歯周病学会発行)』
  - 『歯周治療の指針2015(日本歯周病学会発行)』
  - 『歯周病と全身の健康(2016)(日本歯周病学会発行)』
  - 『歯周病患者における口腔インプラント治療指針およびエビデンス2018(日本歯周病学会発行)』
  - 『歯周病学用語集 第3版(2019)(日本歯周病学会編)』
- に準じた用語を用いること。

歯周病の進行程度は原則として、中等度以上の歯周炎および特殊な歯周炎とする。

\*申請および症例資料の提出は全てデジタル書式にて作成し申請すること。

### 1) 初診時・メンテナンスまたはサポータティブペリオドンタルセラピー(SPT)時

- (1) 口腔内写真：原則として正面像、左右側面像、口蓋面像、舌側面像の5枚以上が望ましい。しかし、症例の概要がわかるものであれば5枚以下でも可。
- (2) 歯周組織検査表：初診時、メンテナンスまたはSPT時およびメンテナンスまたはSPT移行時の歯周組織検査表を添付すること。
- (3) X線写真：デンタル10枚法あるいは14枚法が望ましい。しかし初診時に限り症例の概要が説明できるのであれば、10枚以下あるいはパントモ撮影の写真でも可。前歯から臼歯への移行部、最後臼歯の(第三大臼歯を除く)遠心の骨形態が把握できること。  
インプラント治療などを行なっている場合で、CT画像等があれば資料を添付する。  
プレゼンテーション症例に関しては、初診、およびメンテナンス時の10枚法以上のデンタルX線写真が必要となる。
- (4) 症例中明らかに説明を必要とするもの(特殊なケース・処置内容・その背景など)は、症例中にコメントを記入するか術中の資料を添付してもよい。

### 2) 症例資料

- (1) 口腔内写真およびX線写真の提出には、「症例提出用テンプレート」(ppt, pptx版)を用いること。
- (2) 口腔内写真は、左右側をポケット診査表およびX線写真の左右と一致させること。
- (3) アナログ写真をデジタル化する場合には、300dpi以上の画素数でスキャンニングを行うこと。
- (4) それぞれのデジタル(化)写真をテンプレートに記載してある要領を活用して整理すること。
- (5) 写真を組み込んだテンプレートを、症例資料として「申請者〇〇〇〇・症例No.〇」とタイトルをつけて保存すること。さらにそれらをPDFに変換し提出用症例資料として保存すること。
- (6) 保存した提出用症例資料をCD-Rにコピーすること。
- (7) CD-Rのラベルに、申請者の名前を明記すること。
- (8) 本試験でのケースプレゼンテーションに使用する症例は、申請資料の症例番号1番とすること。また、この症例は歯周外科処置を行っている症例とし、歯周外科手術の術式ならびに骨欠損形態が確認可能な術中写真を添付する。

### 3) 申請書類様式および、提出症例の病歴および治療経過の記録用紙

ダウンロードした規定の様式に申請書類とすべての症例の報告書を入力記載し、紙媒体にプリントアウトし、

必要な個所に捺印を受ける。

**【認定医申請料、登録料送金先】**

郵便振替口座名：「日本臨床歯周病学会認定医係」

口座番号：00110-7-581283

申請料：2万円（申請時） 登録料：4万円（合格後登録時）

**【送付方法】**

- (1) 上記CD-Rと紙媒体にプリントアウトした書類を、角2(A4)サイズのクッション封筒(エアプチ等の緩衝材入り)に入れ、表に自分の名前を記入すること。
- (2) 原則として「ゆうパック（書留）」または「宅急便」で各社の専用の袋を用いて送付すること。
- (3) 申請書類郵送先：〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9駒込TSビル3階  
(一財) 口腔保健協会内 日本臨床歯周病学会認定医係  
TEL 03-3947-8891

**【注意事項】** 症例は認定医審査施行細則第4条第1項に準ずる。

- (1) 歯周疾患患者5症例を提出する。
- (2) 中等度以上の歯周炎（歯周ポケット4mm以上の部位が30%以上、かつ6mm以上のポケットが3か所以上存在すること）であること。
- (3) メインテナンスまたはSPT時に適正に機能している残存歯が10歯以上存在していること。
- (4) 特殊な歯肉炎や歯周炎、あるいは歯周形成手術により歯肉歯槽粘膜の解剖学的異常に対処した症例も1症例含めてよい。
- (5) 全ての症例はメインテナンスまたはSPTまで進んでいること（メインテナンス移行から6ヶ月以上経過していること。）。
- (6) 5症例中4症例以上の歯周外科処置を行っていること。
- (7) 症例記録資料は症例の概要が理解できるようにすること。原則として歯周外科処置の有無がわかる写真を添付すること。
- (8) 年月日については全て西暦で記入のこと。
- (9) 申請書類のデジタル書式は学会ホームページからダウンロードすること。
- (10) 口腔内写真およびX線写真の提出は従来のアルバム形式（アナログ形式）では申請できない。